



震災とクリエイティビティ

Creative reaction to the earthquake in 2011

2011年9月23日[金]-10月11日[火] 11時30分~19時 金曜21時まで休館日9月29日[木]
会場:新・港村Cゾーン/新・港村ギャラリーを中心として 観覧料:新・港村パスポート300円
アーキエイド/建築系ラジオ/石巻2.0/デイリリーアートサーカス/MMIX Lab/他

震災とクリエイティビティ

Creative reaction to the earthquake in 2011

2011年**9月23日**^(金)～**10月11日**^(火)11時30分～19時 金曜は21時まで休館日9月29日^(木)
会場:新・港村Cゾーン/新・港村ギャラリーを中心として 観覧料:新・港村のパスポートが必要300円
オープニングパーティー :9月23日^[金] 19:30-21:00 Dゾーン

この展覧会は、**新・港村**に関わってくださっているチームの中で、**東北地方の大震災**に対する自主的で継続的な活動を紹介させていただくものです。アーティストや建築家等、クリエイターと呼ばれる人たちが「自分たちにできることは何か?」という問いかけを反芻しながら、**真摯に現場に関わっている姿**をご覧くださいと思います。

アーキエイド

東日本大震災における建築家による復興支援ネットワーク[アーキエイド] は、宮城県石巻市地域に根ざした復興支援活動として、建築家と大学院生による牡鹿半島調査ワークショップ・アーキエイドサマーキャンプ「半島"へ"出よ」を実施しました。

311から132日後の7月20日に111人が荻浜中学校に集結。5日間、牡鹿半島・離島を含む30浜に分かれて、津波にさらわれ瓦礫が散乱した浜から里山まで駆け巡るフィールドワーク・避難所での住民ヒアリングを続け、電気も水道も復旧していない体育館の中で自炊し、寝袋でまたは夜を徹して作業しながら、4日目の住民プレゼンテーションの提案書を作り続けました。

この展覧会ではワークショップ最終日、全浜の提案がそろった鮎川小学校での「総合講習会」を再現。参加した学生も、住民ですらそのとき初めて目にした、牡鹿半島の深く傷ついた浜の記録とすばらしい地域資源、そしてそこに住民とともに描いた未来を体験してください。

http://archiaid.org/news/

Archi+Aid
Relief and Recovery by Architects
for Tohoku Earthquake and Tsunami



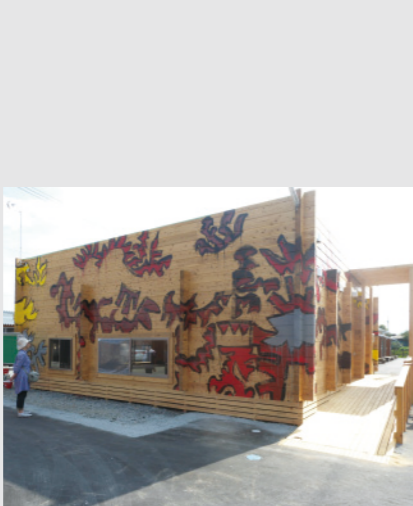
© koimizu yasutoshi

建築系ラジオ

建築系ラジオは、3月15日に震災をめぐる討議を収録し、その二日後に配信した。また3月末には仙台の学生の体験談や被災地の状況をレポートしたが、おそらく建築系メディアではもっとも早い対応だろう。

ラジオのメンバーである東北大学の五十嵐研究室は、震災により大学の施設が使えなくなり、しばらく実験的な漂流教室を試みた後、女川町プロジェクトと南相馬市の仮設住宅地における集会所の計画にとりくむ。前者は津波で流されたRC造やS造のビルを後世に保存する提案、後者は記憶に残る建築をテーマにしたものである。

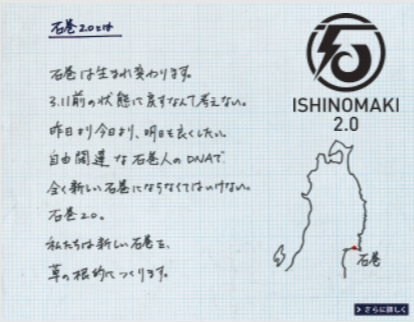
建築系美術ラジオの彦坂尚嘉による壁画が描かれた集会所は、五十嵐研の基本設計とはりゅうウッドスタジオの設計監理により、8月に完成した。関東大震災の後に活躍した今和次郎のバラック装飾社のごとく、アートのある仮設住宅地は311以降では初めてだろう。10月以降、集会所には塔を建て、ベンチも制作することを検討している。



石巻2.0

宮城県石巻市は、今回の東日本大震災で最も大きな被害を受けた地区のひとつです。豊かな自然に恵まれ、海や川と共に生きてきたこの町を、壊滅的な状況に追い込んだのもやはり、海でした。そして今、石巻の人々はこの自然と、故郷と、どのように対峙していくのかという決断を迫られています。被災直後、絶望的な光景が広がる石巻の中心街に、いくつかの小さな活動の灯火がうまれました。この灯りに触発された人々が集まり、次第に大きくなり、できたのがこの石巻2.0という活動体です。集まった人々は職種も様々。そこから生まれる活動もまた、非常に多様です。住民の声を集め発信するvoice、DIYの道具と技術を提供する石巻工房、夜の町に灯りと語らいの場をつくり出す復興パー、街角を劇場に変える野外上映会。商店街の復興を目指し仮設店舗で始めるマルシェ。地元が外の人々を受け止める復興民泊…。

行政の動きをただ待つだけではない。住民自らが町を考え、常に活動しながらより良い町を創り出していく。ひとつひとつの活動は小さいけど、そこでうまれる活動やコミュニケーションは、少しずつだけれど町の形や住民の視点を変え始めています。復興や再生を切り口に、人や情報が集積している現状は、社会やまちにどう貢献できるのか。石巻2.0は、被災をうけとめ、そこで日常をよりよくする仕組みを考えています。



【新・港村バスポート料金】
一般 300円 / 大学生 250円 / 高校生 200円
中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

【お問い合わせ】BankART1929 新港ピア事務所
TEL 045-228-8212 FAX 045-664-3353
mirai@bankart1929.com
「新・港村」公式サイト http://shinminatomura.com

【アクセス】新港ピア 横浜市中区新港2-5
横浜みなとみらい線「馬車道駅」6番出口[赤れんが倉庫口]万国橋・ワールドポーターズ方面へ新港ふ頭まで直進 徒歩約10分

デイリリーアートサーカス

デイリリーアートサーカスとは、トラックにアート作品を詰め込み西日本から東日本へ移動しながら、子供から大人まで楽しめる展覧会です。西日本、関東地域では13箇所で開催活動を行い、その収益金は全て東日本大震災の被災地に寄付しました。その後、17カ所の被災地域の小学校や避難所などの会場で皆さんに無料で楽しんで頂きました。

多くの地域から義援金と物資を集める事も重要ですが、被災地域・日本全体が再生して行く為には、西日本を中心とした日本全域での経済活動・文化活動の活性化が不可欠な要素だと思います。この活動によって、各会場が点として展覧会を経験するのではなく、線としての日本の繋がり、気持ちの繋がり、町の繋がりを感じて欲しいと思っています。また、この活動は継続的来年以降も行う予定です。

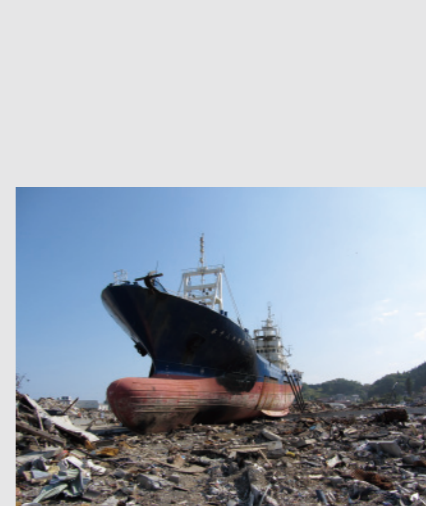
【参加作家】
高橋士郎、野田裕示、吉澤美香、タムラサトル、木村崇人、磯崎道佳、開発好明[代表]



3.11メモリアルプロジェクト

MMIX 「3.11メモリアルプロジェクト」は「のこすプロジェクト」。今回の大震災では多くのものが失われ、家も跡形もなく瓦礫と化した沿岸の町。瓦礫撤去が本格始動し、何もなかったかのように綺麗に元通りに戻すのではなく、後世に伝える「もの」が必要だと考えています。写真、映像、証言、科学的データだけでは届かない、その場で感じられる・感じられたモノを残すこと、原爆ドームのような役割をするメモリアルなモノが必要です。ありえないところにある漁船やねじ曲がった公共物など超現実な世界をあえて残し自然の脅威などを後世に伝えるプロジェクトです。

一般社団法人MMIX Lab[代表:村上タカシ] 既成の芸術の枠組みにとらわれず、各種メディアを融合させ、アートと地域文化を結び創造的芸術活動を行っています。また、市民や企業、行政等と協働で新しい公共としての社会システムを形成していくことを目指しています。
http://mmix.org



会期中の関連イベント

9月23日^[金・祝]
【震災とクリエイティビティ:それぞれの視点から】
17:00-19:00 Dゾーン自由広場
[アーキエイド] 小嶋一浩(横浜国立大学 Y-GSA教授)・千葉 学(東北大学大学院准教授)・城戸崎和佐(京都工芸繊維大学准教授)・宮本佳明(大阪市立大学教授)・槻橋修(神戸大学准教授)・安原幹(東京理科大学准教授)・小野田泰明(東北大学大学院教授)
[石巻2.0] 真野洋介(東京工業大学准教授)・西田司(東北大学非常勤講師)
[建築系ラジオ]五十嵐太郎(東北大学大学院教授)・彦坂尚嘉(美術家)
[デイリリーアートサーカス] 開発好明(美術家)
[3.11メモリアルプロジェクト]村上タカシ(美術家)
コーディネーター: 福屋粧子(東北工業大学講師)
「震災とクリエイティビティ」に展示する5組の活動を紹介。建築家・アーティスト・計画者から、牡鹿半島・石巻や南相馬など各被災地でのそれぞれの支援のありかた、アーキエイド・サマーキャンプやvoiceなど現地での活動を通しての実感、その後の活動の成果や現地での応答性について報告しつつ、震災後半年経った「今、震災について私たちは何ができるか」を共有の問いとして考えます。

オープニングパーティー 19:30-21:00 Dゾーン

9月25日^[日]
【被災地の漢たち4:地域づくりは良い建築から】
14:00-15:30 Dゾーン自由広場 [アーキエイド主催]
ゲスト:セツ浜町役場政策課 遠藤裕一氏
聞き手:渡辺真理(法政大学教授)・下吹越武人(法政大学教授)

10月1日^[土]
【石巻からの出張プチマルシェ】
11:00 -16:00 Dゾーン自由広場 [石巻2.0主催]
石巻で活動を始めたマルシェが横浜まで出張。石巻の魅力や名産をご紹介します。

【石巻の人による石巻の人のための復興の現在を語る会／石巻オフ会】
17:00 -19:00 Dゾーン自由広場 [石巻2.0主催]
パネリスト:阿部久利(石巻2.0代表)・松村豪太(NPO石巻スポーツ振興サポートセンター)・岩田昇太(ON THE ROAD)・柴田滋紀(石巻子ども避難所クラブ)・田中雅子(め組JAPAN)・他
復興の大きな力となっているボランティア団体の現地滞在メンバーに、震災からこれまでの話、今の石巻の状況、新しい動きなど、リアルタイムの石巻をご紹介します。

10月2日^[日]
【被災地の漢たち5:希望を現実に】
14:00-15:30 Dゾーン自由広場 [アーキエイド主催]
ゲスト:根浜海岸宝来館女将 岩崎昭子氏
聞き手:小嶋一浩(横浜国立大学 Y-GSA 教授)・大西麻貴(横浜国立大学 Y-GSA 設計助手)

10月10日^[月・祝]
【アーキエイドの展覧】
14:00-16:00 Dゾーン自由広場 [アーキエイド主催]
猪熊 純(首都大学東京助教)・門脇耕三(首都大学東京助教)・北川啓介(名古屋工業大学大学院准教授)・小泉雅生(首都大学東京教授)・近藤哲雄(多摩美術大学他非常勤講師)・下吹越武人(法政大学准教授)・曾我部昌史(神奈川大学教授)・藤村龍至(東洋大学講師)・藤原徹平(東京理科大学非常勤講師)・山岸 綾(早稲田大学非常勤講師)・渡辺真理(法政大学教授)・前田茂樹(大阪工業大学講師)・他
コーディネーター:成瀬友梨(東京大学助教)・大西麻貴(横浜国立大学 Y-GSA 設計助手) コメンテーター:小野田泰明(東北大学大学院教授)・福屋粧子(東北工業大学講師)
B-10ギャラリーにて週がわりで展示をしてきた、各チームのアーキエイド・サマーキャンプ活動内容全体を俯瞰するとともに、これからのアーキエイドの展望について考えます。

【デザイナー・クリエイターが被災地でできること。／石巻2.0とは。】
17:00 -19:00 Dゾーン自由広場 [石巻2.0主催]
パネリスト:芦沢啓治(建築家)・飯田昭雄(W+K Tokyo)・真野洋介(東京工業大学准教授)・古山隆幸(Webディレクター)
モデレーター:西田司(オンデザイン)
震災後から半年の間、石巻で活動してきたデザイナー、クリエイターが石巻と石巻2.0について語ります。

研究室キャンプ報告会 Aゾーン [アーキエイド主催]
9/24 [土] 13:00-15:00 城戸崎和佐・渡辺真理+下吹越武人
10/1 [土] 13:00-15:00 小嶋一浩+大西麻貴・安原 幹